

繊維造形作家

小林正和さん功績回顧

日本のファイバーアート（繊維造形）の第一人者で、岡山県立大教授だった小林正和さん（1944〜2004年）の歩みと功績を代表作を通して回顧する特別展「小林正和とその時代―ファイバーアート、その向こうへ」が19日、岡山市北区天神町の県立美術館で開幕する。

京都市に生まれ、同市立美術大（現市立芸術大）を卒業後、地元の老舗織物会社に就職。当時、欧米を中心に盛り上がりを見せていたファイバーアートと出会い、糸を素材に張る、たゆむといった性質を生かした立体造形やインスタレーション（空間芸術）を手がけるよ

県立美術館で 19日から特別展 初期から晩年の60点

うになった。作家として国内外で活躍する傍ら、1995年から岡山県立大で後進の指導にも当たった。

竹ひごに張った糸が風に揺れる稲穂を思わせる「KAZAOTO―87」、天井から水が流れ落ちるように糸を垂らした「MIZUTO―99」など、初期から晩年までの約60点を厳選。同時代の作家の約30点とともに展観する。

県立美術館主催、県立大、山陽新聞社共催。5月26日まで、4月29日と5月6日を除く月曜と7日休館。一般1200円、65歳以上千円、高校・大学生500円、中学生以下無料。

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。